平成２８年度　校内共同研究のまとめ

１　二年次の研究のまとめ

（１）共同研究の主題

「ひびきあい，新たな学びを探究する子どもの育成」

～ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を通して～

（２）研究の仮説

①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業をすることによって，全ての子にとって参加しやすく，わかりやすい授業となり，習得と活用につながるのではないか。

②見通しをもって活動に取り組み，その活動を学びに結び付けるための話し合いや振り返りをすることによって，主体的・協働的な学びにつながるのではないか。

（３）昨年度までの課題を受けて今年度取り組んだ事柄

昨年度の反省と研修計画第２年次を踏まえ，今年度は，以下の２点を重視した授業づくりを目指した。

１つ目…ユニバーサルデザインの視点を生かした授業を基本とし，教材研究の際に指導内容を精選し，子どもの思考を「焦点化」させること，何を「視覚化するか」厳選すること，子ども同士の考えを，目的をもって「共有化」させることを重視した授業づくりをしていく。

２つ目…子どもが習得した知識や技能を生かしながら「主体的・協働的」な学び【アクティブ・ラーニング】型授業へと発展できるような活動を取り入れること。

→「アクティブ・ラーニング型」授業をつくる第一歩として本校職員で共有した方法は，「話し合うこと（＝共有化）」，子どもが学んだことに対し「振り返りを行うこと」とした。

（４）成果と課題

＜①ユニバーサルデザインの視点を取り入れることによる知識の習得と活用について＞

〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れることにより知識の習得と活用は図れたか。

・「授業のその１時間で何を理解させるのか（焦点化）」「課題把握や思考を深めるための教材や板書の工夫（視覚化）」「話し合う場面の確保（共有化）」という視点で授業をすることによって子どもが学習内容を理解することができた。

・学んだことを生かして新たな課題を見つけること，より難しい問題に挑戦していくことについては，個人差が見られた。

・（聴く力の育成から言うと）視覚化するものを減らしていくことも必要だが，目から見た情報を得た方が有効。本校児童には必要。継続していった方が良い。

・１時間の授業デザインが子どもたちにも慣れてきて，集中力が増してきた。子どもも落ち着いて授業に取り組んでいけると思う。

＜②学習活動における話し合いや振り返りによる，主体的・協働的な学びについて＞

〇話し合いや振り返りによって，主体的・協働的な学びとなったか。
・ペア学習や小グループの話し合いによって，始めは理解していなかったことに気付くことができている様子が見られた。
・自分の考えが不安な児童がペア学習によって安心感を得ることができ，全体交流に意欲をつなげられることが良かった。
・高学年では，間接指導時に学習リーダーによって進めることができており，自分たちで何をすれば良いか考えながら行っていた。
・間接指導時に「主体的」な学び，ペア交流などの「対話的」な学びをさせることが多くなるため，どのように授業に取り入れていくのか，間接指導の進め方を指導していくのかが課題。
・「協働的」がまだできていない。教師との対話では１対１になってしまうので，子ども同士で対話的に進められるようにしていかないといけない。どのように進めていくかが課題。また，友達が話を聞いてくれるとお互いに信頼できる児童を育てないといけない。
・個人差があるので，「協働」が課題。
・視覚優位ではなく，聴覚優位の子もいるのではないか。どちらも弱い子もいるのでは。実態を踏まえてやっていかないといけない。人の話を聞く力がないのに話し合いは難しい。
・「協働」のイメージがつかみにくいし，そのためにどうするかがわかりにくい。
・新学習指導要領の論点整理の中に出てきた言葉だったが，最終的な答申では「主体的・対話的で深い学び」に変わったので，そこを意識しながら研究を進めていくと良い。

＜その他，仮説に関わること以外で＞

〇仮説以外の部分で，お互いの授業を見合い学べたこと，参考になったこと，今後に生かしたいことなど。
・本校児童は，話を聞いたり，本を読んで文字は見ていたりしているが，中身の理解が弱い。集中力も続かない。朝読書や読み聞かせを全校で取り組んではどうか。（週１など）
・支援の先生の関わり方は，新学級の児童の支援の必要度によって，毎年変わってくるものだと思う。打ち合わせをしながらＴ２としての動きもしてもらうと良いのでは。Ｔ１，Ｔ２も入れ替わっても良いのではないか。

２．仮説の検証

①ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業をすることによって，全ての子にとって参加しやすく，わかりやすい授業となり，習得と活用につながるのではないか。

→本校の児童は，支援在籍かどうかにかかわらず，気配りや目配りなど多くの配慮をしなければならないため，全員が参加できること，わかることを目指すためには，学ぶ内容の焦点化，教材や板書の視覚化，友達と相談しながら進める共有化など，ユニバーサルデザインの視点で授業を構成することは大切だと考える。

②見通しをもって活動に取り組み，その活動を学びに結び付けるための話し合いや振り返りをすることによって，主体的・協働的な学びにつながるのではないか。

→　単元や１単位時間の授業のゴールを，子ども自身が見通しをもてるように課題提示をすると話し合いの内容が充実することがわかった。特に高学年では，何を解決すれば良いのかを理解し，そのためにどのような活動が必要かを自分たちで考え，学習リーダーが進めるという様子が見られた。

学習の振り返りをさせると，次時に何を学ぶのかという見通しがもてたり，もっと難しい問題に挑戦した

いなど，意欲をもたせたりすることができた。アクティブ・ラーニング型授業を仕組むことによって，主体的・協働的な学びをさせていくことができると考える。

教科学習に限らず，総合的な学習の時間の農園活動や道徳，行事などでも「見通し」「話し合い」「振り返り」は大切にしたいキーワードだと共通認識をもちたい。

３．次年度の共同研究の方向性

幕別町複式教育研究大会に向け，これまでの実践の反省を踏まえた授業実践を積み重ねる。

ユニバーサルデザイン，アクティブ・ラーニングの全てを盛り込んだ授業は大変なので，ポイントをしぼって行っていくのが良いと考える。例えば，

①導入時に，「考えてみたい」と思わせる課題と出会わせ，見通しをもたせる「課題意識重視」授業

②展開時に話し合い活動を取り入れる「対話重視」授業

③終末時に学習内容や学習過程を振り返らせたり自己評価したりする「振り返り重視」授業

のように「アクティブ・ラーニング」の視点を取り入れることを目的とするのではなく，単元や本時の目標を達成するために取り入れた方が効果的に達成できるという時間や場面を見極めて取り入れていく方向で考えていきたい。

・思考力，判断力，表現力を高めるのが大切。
・主体的な学びと言っても，間接指導時に子どもたちだけで進められないので，複式の学習スタイルを本校なりに明確にしていく必要がある。
・学習のきまりを共有して，子どもたちだけで学べるようにしていく。
・仮説２に関わって，間接指導時に主体的，対話的に進められるようにしてはどうか。学校として子どものどういう姿を目指していくのか。低中高で目指す姿が違うと思う。話し方や聞き方の目指す一覧を作ってはどうか。全員に同じ姿を目指すのは難しいので，個人目標も立ててはどうか。
・特認校として，いろんな事に取り組んでいる。体験的な活動をどのように学びにつなげていくかということを考え，総合的な学習のカリキュラムマネジメントが必要である。
・作った教材を管理し，蓄積していくと良い。
・国語の力が落ちつつあるため，読書の取組や宿題で読解力を深めるようなワークをやってみてはどうか。
・「協力指導（ＴＴ）」の在り方を学び，効果的な指導をすると良い。
・日常的な取組となるようにポイントを絞って行うのが良い。無理をしないようにしたい。
・全校で統一して取り組むというのが子どもたちを伸ばすのに大切。